

平成 26 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 微小粒子状物質の広域的な汚染実態の把握と発生源寄与の解明

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p>近年注目を集めている PM2.5 は、人体影響の観点から、実態把握と対策実施が急務となっている。</p> <p>本課題は他の地公研に先がけて、構成成分の詳細な把握と発生源解析を中心として研究を進めているもので、既に 26 年度までの先行課題の中で、多くの成果が上げられている。</p> <p>26 年度までの結果から、周辺都県との間の輸送が重要な検討事項であることが判明しており、また発生源種類だけでなく、発生源位置の把握の必要性に対応できていない点が課題となっている。</p> <p>27 年度からの新規課題では、発生源の種類と地域の解明を目的として、他機関との連携により広域的な解析を行うことが主眼となっており、時宜を得た課題設定と評価できる。</p> <p>本研究課題で使用するモデル関係の技術は、他の大気汚染現象にも適用可能なものであることから、センターの研究面での技術向上にも資することが期待できる。そのため、可能な限り多くのスタッフがモデル計算作業に直接関わることができるような研究運営管理が望ましい。</p>	<p>これまで、県内の PM2.5 の汚染実態の把握を中心に解析を実施しており、今回の研究は広域的な実態把握と県内 PM2.5 の発生源位置を含めた寄与解析を行う予定です。</p> <p>これまで実施した 3 ヶ年の研究では県内の高濃度事例を対象として気象との関係整理や発生源解析を行いその結果を学会発表や講演会を通じて報告しました。</p> <p>これまで実施した 3 ヶ年の研究から、発生機構の解明と発生源地域の推定には広域的な情報収集と複数の手法による多面的な解析が必要であることが明らかとなりました。</p> <p>本研究では、課題解決に向けて国立環境研究所等との共同研究や関東甲信静の自治体と連携した調査を推進する予定としており、発生源推定の精度向上などに努めます。</p> <p>本研究では共同研究を通じてレセプターモデルによる解析やシミュレーションを実施する予定です。解析に際しては参加研究機関と事前調整を図り、効率的な作業が行えるよう役割分担を明確にして実施します。</p> <p>モデル解析は共同研究を通じて実施しており、参加研究機関の技術情報の共有化を目指してシミュレーションソフトに係るインストールマニュアルの作成などを行いました。こうした情報の活用も含め所内研究員への情報共有を図るとともに、技術向上を図ります。</p>

平成 26 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 微小粒子状物質の広域的な汚染実態の把握と発生源寄与の解明

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p data-bbox="174 389 936 459">国立環境研究所・他機関との連携は重要。ただし、無駄な重複が無いよう、役割分担・調整は入念に進めていただきたい。</p> <p data-bbox="174 544 936 614">発生源データには、既存の様々なデータを活用し、省エネ法のデータ等も活用すべき。</p>	<p data-bbox="990 389 2089 496">レセプターモデルによる解析やシミュレーションは国立環境研究所等との共同研究や関東甲信静との連携調査を通じて実施する予定です。参加研究機関との役割分担は、解析の実施前に事前調整を図り、重複作業のないよう努めてまいります。</p> <p data-bbox="990 544 2089 614">発生源解析には多種のデータが必要となることから、ご指摘いただいたデータを含め情報収集を図ります。</p>

平成 26 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 微小粒子状物質の広域的な汚染実態の把握と発生源寄与の解明

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p data-bbox="197 389 629 416">重要な研究テーマであると認識する。</p> <p data-bbox="176 544 931 611">他機関と連携し、観測とレセプターモデルやシミュレーションモデルという解析の両面から取り組むという計画は評価できる。</p> <p data-bbox="176 738 931 919">常時監視のみではモデル解析のデータとして数、あるいは、時間分解能の面から不足することも考えられる。高濃度発生時だけでなく、解析の必要度に応じて試料採取計画を変更するなど、モデル解析の結果と観測計画の連携で研究計画が進むことを期待する。</p> <p data-bbox="176 967 931 1034">モデルによる解析結果や解釈には他の方面からも検証することを考慮して進めて頂きたい。</p>	<p data-bbox="981 389 2089 496">本県では平成 24 年度から 3 ヶ年計画で PM2.5 に関する調査研究を実施し、特に、平成 26 年度は高濃度時に即応した調査の実施や分析項目の追加など研究の充実、加速化を図りました。来年度からもプロジェクト研究として重点的に取り組み、研究結果の充実を目指します。</p> <p data-bbox="992 544 2089 687">これまで実施した 3 ヶ年の研究から、課題として、関東平野を対象とした広域的な情報と複数の手法による多面的な解析が必要であることが明らかとなりました。 本研究では、国立環境研究所等との共同研究や関東甲信静の自治体と連携した調査を推進する予定としており、発生源推定の精度向上などに努めます。</p> <p data-bbox="981 738 2089 882">本研究では広域的な解析を目指しており、必要となる県外データは共同研究を通じて入手する予定です。共同研究では高濃度発生時の実態把握と発生源解析を中心に調査を行いますので、常時監視以外のデータについては、高濃度時を対象とした情報収集に優先的に取り組み、必要に応じて参加機関と調整して追加調査の実施を検討します。</p> <p data-bbox="981 967 2089 1074">これまでの研究から、多面的な解析が必要であることが確認され、本研究ではレセプターモデルとシミュレーションモデルの両方の結果を活用して解析する予定です。また、共同研究によって解析結果の相互比較が可能となることから、これらをもとに結果の検証に努めます。</p>

平成 26 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 微小粒子状物質の広域的な汚染実態の把握と発生源寄与の解明

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<p>平成 26 年度までの研究で、大きく成果が得られており、新たなモデル等の発展をすることで、発生源の位置推定まで試みるといふ、研究レベルの高さ、また予想される結果の社会的意義は高いものとする。PM2.5 はアセスにも将来的に項目として加わる可能性もあると伺っており、行政研究として重要度の高いものとする。</p> <p>外部との共同研究・調査の取り組みも推進し、広く関東圏の連携ができることも期待される。</p>	<p>これまで実施した 3 カ年の研究を踏まえ、本研究では広域的な汚染実態の把握と複数の手法による多面的な解析を実施します。</p> <p>レセプターモデルによる解析やシミュレーションは国立環境研究所等との共同研究や関東甲信静の自治体との連携調査を通じて実施する予定で、こうした協力のもとに行政ニーズである発生源推定の精度の向上などに努めます。</p>